

国内外の厳選されたアイテムを取り揃え、幅広い層の女性に支持されている「ハローマーケット」。太田を軸に自社ブランドを展開するデザイナー山鹿直子さんに、その想いを伺つた。

素材の良さと着心地を大切に、

お客様に応えていけるセレクトショップ思わず着たくなる服をデザインし、太田から全国へと届けたい

ハローマーケット 代表・デザイナー

山鹿 直子さん



1974年1月18日生まれ O型
趣味 フラダンス、ガーデニング インテリアを楽しむこと

大好きな「ものづくり」からアパレルの世界へ

柔らかい空気が流れ、心地良さに包まれる店内。「ここは、太田の街でお客様の声に応えていく場所だと思います」。そう話すのはデザイナーの山鹿さん。

洋服のデザインを専門としているが、店舗の内装からカタログに至るまで「とにかくデザインすることが好き!」というその想いが、店内を彩っている。

平成12年4月に株式会社マウンテンディアを設立し、翌年の5月、太田には珍しいセレクトショッップとして「ハローマーケット」をオープン。この春からは自社ブランド「」を立ち上げ、ここ太田から全国展開をスタートさせた。

出身は山口県下関市。「小学生の頃から、ものづくりに興味があり、編み物や裁縫をよくしていました。祖母が洋裁をする人だったのです、影響を受けたのかもしれませんね」。高校卒業後上京し服飾専門学校で洋裁技術を学んだ。アパレル業界に入つてからはブランドを立ち上げ、服作りだけではなく、路面店の内装デザインまで携わるなど、「世界観を創ること」を積み重ねてきた山鹿さん。「デザイナーという仕事は、大好きな『ものづくり』の中の一つだと思っています」。海外への一人旅が好きで、そこで掴んだ感性と収めてきた写真からも、カタログや生地の柄へとヒントを繋ぐ。

これまでの経験と繋がりを支えに新たなスタート

「群馬は二ツが盛んな街だと、あとから知ったのですが、産地に近い場所で手掛けられることはとてもいいこと。工場や作り手の方と近くで、携わりながらできる仕事がした

かつたので、ここは楽しい場所ですね」。

都内のアパレル会社にいた時とはまた違う「太田にいるからこそできること」がある。

ニット得意とする山鹿さんは嬉しい環境であり、日本製、太田市製にこだわり、より厳選したものを創つていきたいという想いから、自社ブランドを立ち上げた。「触れたくなる、心を動かす」という意味から「touch(トゥタッチ)」と名付けられ「着心地、素材感」を大切に「手にとりたくなるもの」を太田から全国に発信。現在20件近くのショップで販売されている。

「今の50、60代の方々は、目も肥えていてオシャレ。娘さんとシェアされる方も多いでですね。どの年齢層でも着ることができるもの扱いやすくて素材のいい物を」というのが根底にあり、そこに「デザインをプラスしていくんです」。

「自社ブランド以外にも、東京での展示会に自ら買い付けに行く山鹿さん。ショッピングブランドを同時にすることで、お客様の反応が目の前でリアルに受け取れ、バランスもとりやすい。「ついつい次の日も着たくなるような気軽さと着心地の良さを届けたいですね」。量販店とは違うセレクトショッップとしての価値に、今ではリピーターも多い。

「今後、太田の街にいろいろな個人店が増え、コミュニティーの場になると楽しいかなと思うんです。ここもそんな存在になれたたら…」。山鹿さんの創り出す世界には、思わず触れたくなるような心地良さがあるのでないだろうか。



P.20 の関連広告もご覧ください。